

昭和43年11月5日

NO.48号

発行 佐井村役場

# 広報さい

人口

|    |       |
|----|-------|
| 男  | 2617人 |
| 女  | 2604人 |
| 世帯 | 1,076 |

## 「かもしかライン」開通

佐井—川内間道路

すでに新南野で御承知かと思いますが、県道大向、川内線の全線が去る十月三十日開通致しまして、これからは車で川目、湯の川を経て川内町へ出られるようになりました。

ここに至るまでには県の関係者や自任隊の方達の並々なりぬ御労苦があったのであります。左のような行事をもつことになりましたので、村民の皆さんにも之をお知らせしまして喜んでいただき、また、御協力を得たこともあり一筆したためました。

### 記

- 一、十一月四日午後一時、知事、師団長、外内係長、川内町役場出発、川内町管内で「はさみ入式」。
- 一、川内町管内より分水嶺を越えて佐井村管内に入つてすぐの場所で記念碑の除幕式を挙行。
- 一、佐井菅林帯前の広場には中学校、プラスバンド、小学校ご同隊、日の丸を持った小、

中学生が待機して知事、師団長一行の来村を歓迎の意を表す。午後三時(予定)一行の来村を機に花火をうち上げ、音楽演奏後、「はさみ入式」を行なう。(アーチ設置)直ちにパレードし佐井開通式場の佐井小学校に向つ。

## お願ひ

以上のような次第です。この当日は祝意を表すために、各戸は国旗の掲揚をお願いします。

助 役

## 「働く青少年生活文で大臣表彰」

教員の資格を夢に生きる竹内(生漣)さん

竹内さんが毎年行なっている

「働く青少年の生活文コンクール」で勝山市旭町一丁目松文産業女子寮内、竹内敏江さん(一八)が竹内大臣表彰を受けることに決まった。

三日前、向学心に燃えて村を出た竹内敏江さん(昭和四十年三月牛道中学校卒業、竹内要次郎長女)は、福井県勝山市の織物工場、松文産業に

就取し、現在福井県正勝山精華高等学校定時制二年に通学している。

本校を四十年三月卒業し、それから二年間の空白があったが、自分の夢を實現させた一心で村を出たもの。

今年の一月に勝山の松文産業を訪ねた時三年前の彼女とは見違える程、生き生きとした表情で励げんでいた。

△度の表彰、家族の喜びはひとしおであり、本人はますます情熱を燃やしている。尚この工場には本校卒業生が六名就取し、その中四名が定時制高校へ通学している。

彼女の成績は、当在学中から一、二番を競っていたが、勉強熱心な彼女は、高校へ入学して以来、連綿百名中のトップだった。現在一年生である三名の生徒も、この先輩に敗けじと頑張っている。また、この中には、彼女の弟である幸弘君(長男)も入っており、校内の弁論大会に入賞したというのである。  
日本一に選ばれたことは、

彼女の意欲を増長し、彼女を成長させる契機になって、故郷に気持ち一杯である。

決まった仕事もなく、出稼みや湖ごとに手伝いして生計を営む六人家族、四入羊糞の婢もあり、経済的に恵まれない彼女には、こづかいの長く苦しい生活が横たえています。彼女の前途の曲折が少しでも軽いものであつて欲しいと願う反面、彼女の師として、世々篤志家の何らかの助けを待たず。

津島中学校

教諭 坂田次雄

### 十一月は国民年金普及推進月間

制度発足以来、この月を「普及推進月間」として、おおいに制度の味を理解していただくためのPRに努めてきました。今年も普及推進月間の支給開始を期にひかえた重要な時期です。より充実、発展させるためPRを繰り返すことに

なりました。  
当村としては、具体的には、広報を通じてPRを行いたいと考えております。

国民年金に加入して本当によかったという人がたくさん出てきています。

### 奥例(イ) 三沢市のSさん

Sさんのご主人は、釣りが好きだった。五月十六日と十和田湖に釣りに出かけ、ちようど地震があったときは、釣りの帰りであった。釣りを終り、三沢市の自宅へ向け、十和田市をへイクと通過中、がけくずれのため、生理めになったのだ。

あとに残ったのは、Sさんと三人の男の子。ご主人は三沢基地に勤め、厚生年金をかけていたためSさんは国民年金に入っても入らなかつた。しかし、Sさんは万一のことを考え制度が始まったときから希望して加入し、保険料をきちんと納めていた。今、Sさんは六万四千八百円の母子年金を受けられることになった。

### 奥例(ロ) 野辺地町のTさん

その日、Tさんのご主人は、十和田市に住む母親のところへ田植の手伝いに行っていた。山に囲まれたたんぼのせきのはたで水口を作るため、木などを切っていた。ちようどその時山くす水が起り、一瞬のうちには、一緒にいた母親と、その下敷になつてしまった。Tさんは、三十六年から国民年金に加入し、保険

料を納めたり、納めなかったりの状態であったが、近ごろは、きちくと納めるようになっていた。Ｔさんは二人の子ともがおり、年金額六万円の母子年金を受けけることになった。

以上実例として二例ほど紹介いたしました。視に当村でも母子年金五件、遺児年金一件、計六件の拠出制年金の受給権者がでております。

**国民年金に加入しなげればならないのにまだ加入してない方はありませんか。**

二十歳以上の方で、どこにも勤めに出来ない人、自分で商売をしていく人、農漁業をしていく人などは必ず国民年金に加入しなげればなりません。国民年金に加入することは、大抵のためにも自分自身のためです。手続きは、早日にすませてください。また、私達のまわりにもまだ加入の手続きをすませない人がおりましたら早く手続きをとりようといやうに下さい。ツラリ・マンズ奥さんの加入もすすめておきます。とんとん加入して下さい。

十月は、七月から九月分までの保険料の納期限です。今月は四月から九月分までの保険料をまだ残っている分を納めてしまつてです。国民年金に加入するということは、まずいからまたは、それ以前に事故があったとき（たとえばご主人に亡くなるか、ケガをしたり、病気になるなど）に年金が生産をささえてくれるという魅力のためですが、そのためは国民年金に加入していただけては、保険料をきちんとならなければなりません。

納め残しの保険料があつては、せっかくの年金を受けられないことになりす。日ごろからどのようにならぬに努めて年金が受けられる体制をつくつておくことが大切です。

目 録

**戸籍の窓**

十月分

お誕生おめでとうございます

- 大田 靖子(父 睦) 大佐井
- 木下 美香子(父 重幸) 矢越
- 田中 忠敏(父 肇男) 磯谷
- 鈴木 美香(父 肇郎) 野平
- 宮川 一樹(父 勇) 大佐井
- 柳田 ぶく子(父 市雄) 福浦
- 横浜 勝広(父 正吉) 古佐井
- 島野 恭子(父 重徳) 古佐井
- 奥本ひろみ(父 定信) 大佐井

結婚おめでとうございます

- 田中市 義 磯谷
- 長谷川 洋子 青森市
- 山崎 春雄 蒲江町
- 中村 八木重子 大佐井
- 笠井 博 稚田市
- 鳩 った 長後

- 工藤 国光 豊田町
- 笹脇 和江 古佐井
- 宮本 国夫 大佐井
- 小松 久子 三島市
- 國田 栄五郎 大畑町
- 樋口 桂子 大佐井
- 小寺 美代子 青森市
- 野村 美智幸 牛滝
- 渡辺 昌一 古佐井
- 松宮 厚子 藤沢町
- 中島 憲治 佐原市
- 東出 みや 磯谷

逝去おくりやみ申しあげます

川畑栄蔵(みつ方) 大佐井

**広報へ建設的**

内容自由と意見見直し  
切りは特になんか  
原稿 敬 近

### 税完納についてのお願い

納税については何かと滞り力をいたたまき感謝申し上げます。

さて、昭和四十三年度の税収納額を各地区別にみますと、全体では昨年同期より薄層の上昇は見つけられますが、当初の村計画より低く、これが財政に支障を期としておりますので、尚一層の理解と滞り力をお願い申し上げます。

● 昭和四十三年十月二十日現在×村県民税、固定資産税、国民健康保険税の納税滞りは左のとおりです。

| 地区名 | 課税額      | 滞り率 (%) |    |    |    |    |    |
|-----|----------|---------|----|----|----|----|----|
|     |          | 10      | 20 | 30 | 40 | 50 | 60 |
| 大佐井 | 4509930  |         |    |    |    |    |    |
| 吉佐井 | 4629200  |         |    |    |    |    |    |
| 原田  | 1952210  |         |    |    |    |    |    |
| 川口  | 359830   |         |    |    |    |    |    |
| 矢越  | 824370   |         |    |    |    |    |    |
| 減谷  | 1194690  |         |    |    |    |    |    |
| 長後  | 434140   |         |    |    |    |    |    |
| 福浦  | 785670   |         |    |    |    |    |    |
| 中津  | 781350   |         |    |    |    |    |    |
| 野平  | 349320   |         |    |    |    |    |    |
| 合計  | 15472480 |         |    |    |    |    |    |

### 年賀はがきは十月十一日から

年賀はがきは、十一月十一日から全国一斉に売り出します。

このはがきは、必要数の七割位より毎年手まきおこなわれてきたので、なるべく早目に買い求め下さい。

佐井郵便局

### 秋から冬にかけての健康

赤日港カゼに注意

最近話題になった新型のインフルエンザ A3型、いわゆる「香港カゼ」は香港で猛威をふるいました。香港ではすでに最盛期は過ぎましたが、日本本土に上陸する危険があるのがわが国の防波陣も警戒してします。

この秋から冬にかけてはまず「香港カゼ」を防ぐことにしましょう。それには、平素からの健康管理に十分気を付けて、できるだけ感染の機会を防ぐことが先決です。そのための注意として

は次のとおりです。

○ 温度の変化に気をつけ、こまめに衣服を調節する。

○ 汗をかいたら必ずあせり拭き。

○ 湯ざめ、うたたねにご注意。

○ ウガイの励行

○ 人ごみでできるだけ出ないように、また乳幼児への感染源は母親なので母親はできるだけ人ごみはさける。

○ 不節制をしない。

○ 疲労が重なるると体の抵抗力が落ちるのでその日のうちに疲労はとりのぞく。

○ 栄養を十分に。秋口の緑黄野菜、大豆製品その他タンパク質を十分にとりて栄養をつけ抵抗力を養う。

○ 体の弱い人、乳幼児、老人はできるだけ予防接種をうけて軽くすむよう心がける。

#### ◇ インフルエンザを守ろう

秋から冬にかけては子供は感染病が流行します。百日咳、お多福がせ、ジフテリア、インフルエンザなどです。このうち予防接種のあるものは秋口までにすませておいて冬の子どもの健康を守りましょう。